



地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



より良い医療連携を推進し 基幹病院の役割を果たす

平鹿総合病院 院長 堀 口 聡

平素より、当院の診療および地域医療連携にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

当院では、地域の医療機関との円滑な連携を通じて、患者さんにより適切な医療を提供できるよう努めております。その一環として「地域医療連携室」を設置し、紹介・逆紹介の推進、診療情報の共有、相談支援などを行っております。

近年、地域の人口減少に伴い患者数が減少し、それに加えて医療従事者の確保も年々厳しさを増しております。こうした状況の中、当院では限られた医療資源を最大限に活用しながら、地域の皆さまに引き続き安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

このたび、4月より病棟を一部削減し運営することとなりました。また、形成外科および糖尿病内科の常勤医が不在となるため、これまで当院で診療を受けていた患者さんにはご不便をおかけすることもあるかと存じます。今後は、地域の医療機関とより一層連携を深め、診療体制を維持・強化してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

引き続き、地域の基幹病院としての役割を果たし、かかりつけ医の先生方との連携を強化しながら、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整えてまいります。

今後とも、より良い医療連携のために、皆様のご意見をいただきながら、充実した医療サービスを提供できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

も く じ

より良い医療連携を推進し基幹病院の役割を果たす	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
当院の診療科のご紹介	③
トピックス「認定看護師の活動報告」	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

地域医療に邁進します！



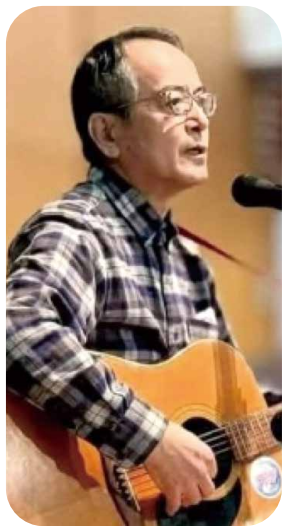
さわぐちクリニック
院長

沢 口 昌 亨



「地域医療連携室だより」をご覧の皆様こんにちは。当クリニックは、平鹿総合病院の隣に開院してから早いもので6年が過ぎようとしています。祖父が1946年に旧横手市の外れに医院を開業以来、父がそれを受け継ぎ、そして私3代に渡って地域医療に携わっております。現在、当クリニックには下は就学児から上は90歳を超える幅広い年齢層の患者さんが来院され、訪問診療を担当させていただいている患者さんには100歳を超える方も複数名おられます。患者さんの中にはご家族全員が当クリニックをかかりつけ医としてくださっているご家庭もたくさんあります。ノロウイルスや新型コロナなど感染力の強い感染症がそのご家庭で出たときは、「あそこのじっちゃん大丈夫だべが?」「いま、若夫婦具合悪いがら、母さん孫の迎えさいがねばダメだべな」と思いを馳せるなど、勤務医時代以上に地域住民の方々を身近に感じながら診療する毎日を送っております。これが開業医の醍醐味というものでしょうか。これからも地域みんなのかかりつけドクターとして、患者さんの機微を捉えられるような診療を心がけ、地域医療に邁進してまいります。よろしくお願いいたします。

私の願い ～看護の力をもっと地域に～



デイサービス ごやさん
管理者兼生活相談員

越後谷 利 秋

リタイア後、福祉や介護の分野は全く素人の私が、小規模デイサービスの運営を始めて7年目になろうとしています。私の持ち味は、自分の住む地域や施設又は行事・イベントなどで、趣味の弾き語りでの「トーク&ライブ」をすることです。

日々、利用者さんと楽しく「うたごえタイム」で伴奏し一緒に歌を歌う…、これなら私でもできる、と最初は安易な気持ちでしたが、そんなに甘くはありませんでした。

送迎や、請求をはじめとする事務全般はもちろん、福祉や医療現場に従事されてきた、専門職の皆様からの指導にて、自分の親にもしてあげたことのない、トイレの誘導・介助や入浴介助も経験しました。不安な私に、笑顔で「ありがとうね」とお声をかけて下さる利用者さんに逆に励まされ、見守って頂いていたと思います。

この仕事を続ける中で、心の中に湧き挙がってきた素朴な私の願いがあります。

利用者さんやご家族から、特に感謝されるのは、体調観察や手足の爪切り等々、医療現場での経験を生かした、看護師スタッフさんたちの働きです。私の運営するデイサービスでも、交代制の短時間勤務という体制で協力して頂いています。医療現場で培ったスキルを活かし、リタイア後であっても、「看護の力」を今後も地域に寄せて頂き、共に高齢者に寄り添えたなら、本当に素敵なことだと思います。

当院の診療科のご紹介

消化器糖尿病内科 当科における内視鏡治療

平鹿総合病院 消化器・糖尿病内科 診療部長 加藤 雄平

●当科の内視鏡治療

現在当院消化器糖尿病内科では、開業や退職などでメンバーが大きく入れ替わり、この4月からは新たに2名の30代が加わり、私以外の医師5名が全員30代と大幅な若返りを果たしております。また夜間休日にも内視鏡室専任の看護師が自宅待機しており、365日24時間緊急内視鏡に対応可能となっております。



●消化管内視鏡治療

内視鏡を用いてポリープやがんを切除する方法です。主に食道や胃に生じた早期癌に対して内視鏡を用いて切除を行います。方法はポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）に分けられます。

早期癌であれば、身体に負担の少ない内視鏡治療により切除が可能となりました。病変部の大きさ、深さ、癌の種類によって適応を厳密に決定してから方針を決定します。

切除後は病変部に人工潰瘍が発生します。まれに出血や穿孔を伴うことがありますので、原則入院して行います。

●胆道膵臓内視鏡治療

主に胆管結石を内視鏡的に除去したり、腫瘍による閉塞性黄疸に対してドレナージを行う治療で当院では年間200例弱の治療を行なっています。

年々内視鏡やデバイスも進化してきており、以前では不可能であった胃全摘後の患者さんにシングルバルーン小腸内視鏡を用いた胆管結石除去なども現在では可能となっております。

また近年は秋田大学病院から派遣されている医師と協力して超音波内視鏡（EUS）を使用した診断や穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）を組み合わせた確定診断も大幅に増加しております。

●病診連携に関して

当科においては各内視鏡治療に関してクリニカルパスが用意されており、最短の入院期間で安定した状態で治療が終了するよう設定されております。内視鏡治療が必要な症例に関しては当科にご相談頂ければ幸いです。

認定看護師の活動報告



「認知症の人に寄り添い、 気持ちよく入院生活を過ごせる病院に」

平鹿総合病院 認知症看護認定看護師 村上 望 美

秋田県の65歳以上の高齢化率は令和6年7月現在39.7%、横手市は42.0%と県計よりも高い地域にあり、高齢者が多いと認知症を有する人も多くなります。認知症看護認定看護師の果たす役割は、認知症の発症から終末期まで、認知症の人の状態像を統合的にアセスメントし、各期に応じたケアの実践とケア体制づくり、家族のサポートの他、専門性を発揮することが求められています。

現在、私は認知症高齢者の多い地域包括ケア病棟に勤務しています。認知症の人は環境が変わることで心身に大きな影響を受けます。治療が優先される状況下での制限や苦痛を伴う処置などの環境は、不安や混乱を生じ認知症の症状を悪化させてしまいます。そのような影響を緩和するため、認知症看護の実践を通して安心して過ごせる療養環境の提供と、早期に地域へ退院できるように他職種と連携して退院調整を行っています。また、月2回急性期病棟を周り、スタッフに対してケアや対応方法などのアドバイスを行っています。認知症の進行とともに自分の意思をうまく伝えることが困難になる認知症の人に寄り添い、気持ちよく入院生活を過ごせる病院となるよう日々努めています。また、地域の皆さまには認知症に関する相談や知識の普及にも貢献できればと思いますので、是非活用していただけたら幸いです。



地域医療連携室スタッフ

室長 榎本 好 恭
課長 伊藤 大 輔
看護主任 大沢 知 佳
事務 小山 郷
三原 妃 葉

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
代表 TEL:0182-32-5121 FAX:0182-33-3200
URL: <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

*月曜日～金曜日(土日祝日除く) 8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL:0182-45-6012 専用 FAX:0182-32-0698
E-mail: tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp